



「特集」

技

園児と地域のために広く、明るく、快適に。 地域に開かれた保育園として、法規をクリアし念願の増築

園児数の増加に対応

富山県高岡市戸出6丁目の戸出住宅団地に、戸出北部保育園が開園したのは昭和53年のことである。約90人の定員でスタートしたが、平成8年頃に7丁目ができ、約三〇〇戸の住宅が増加。それにつれて園児も約二〇〇人と増えた。特に、未満児と言われる〇歳〜2歳児が増え、ゆとりのある乳児室が必要になってきた。

また、職員事務所も狭く、来客時の対応や会合などに使用する部屋がなく、不便だった。そのため、来客用の会議室も求められた。そこで、乳児室と会議室の増築を行うことになり、施工業者は入札によって決定した。

「決まったのは地元の業者さんで、たくさんいい仕事しているのを知っておりましたから、安心してお任せしました」と、園長は語る。

9月に着工する予定だったが、乳児室は園庭に増築するため、運動会の終了を待って10月から施工することにした。

施工する前に解決すべき問題点

しかし、施工する前に解決しなければいけない問題のあることがわかった。保育園のある地域が建築当初と用途地域が変わったため、建築基準法の既成も変わり既存不的確になったのである。

「既存の建物の問題を解消しないと、法律上増築はできないんですよ。これには困りましたね」と、担当者。

そこで、審議会の開催、協議という手順を踏んで、ようやく問題を乗り越えた。さらに延べ床面積の増加に伴う消防署への申請も玄関部分施工前(上)。向かって右側に会議室を増築。(下)。六角形の形と半円の窓が、玄関と調和し、可愛い外観を作っている。



乳児室の施工前(上)と増築後(下)。既設のデッキを移動して設置した。屋上は、2階のベランダとつながっている。



行い、ようやく着工となった。

既存の乳児室は、1階にあり、畳の部屋になっていた。そこに隣接して15坪程度を増築した。既存部分の畳をやめ、全面床暖房の入ったフローリングとし、広くワンフロアで使用できるようにした。これで、子どもたちも保育士も伸び伸びと使えるようになり、清潔感があり、冬でも暖かい部屋となった。

「乳児というのはこの動作が主ですから、床暖房はぜひ入れたいと思いました。出来上がって、子どもたちが広く快適に過ごしている様子を見ると、よかったですね」と、園長。



拡張した乳児室は、床暖房で冬でも暖かい。



台形の会議室は、開き窓と半円の窓がやさしい印象。



会議室前の玄関部分も新しいフローリングになった。

現場の意見と提案で使いやすく

奥のコーナーには一部畳スペースを設け、昼寝の時などに使用している。また、既存のデッキを活かして増築部分に設置し、自然とふれあえる空間も確保した。

会議室は、当初2階に設置する案もあったが、検討の結果、正面玄関横に増築することになった。通常なら、四角い部屋が張り出すような形になるのだが、場所が道路に面した正面玄関横ということもあり、形に工夫をこらした。

「立地条件や保育園ということを考えて、角を取って台形の形にしました」と提案したんですと、担当者。「四角い建物を建てるのは簡単だし、角が斜めだと現場が大変なんですけど、景観をよくしようと考えました」

内部は六角形のユニークな形になって、保育園らしいゆとりがある。半円の窓と両開き窓を組み合わせた窓も可愛い印象だ。通常の窓に比べて割高だが、他の部分で予算を抑えるなど工夫をした。出入口も何案か検討したが、元は下足箱のあった場所にした。

さらに、室内にミニキッチンが付いていた、照明が丸形になっていたなど、使い勝手がよく優しい空間になっている。これらは職員からの要望だ。

「実際に使用されるのは現場の方々ですから、『保育士さんの要望を聞いてください』と、こちらから園長先生にお願いしたんですよ」と担当者は言う。

「業者さんと保育士とが互いに話し合っ、満足できる職場になりました。保護者の皆さんから『よかったね』という言葉も聞かれました。喜んでおります」と、園長。

温かい気持ちが集まった今回の増築で、子どもたちや保育士さん、また地域の人々にとっても、伸び伸びと心地よく過ごせる保育園となった。



技のリフォーム

イワザ ミセマス

0120-183-304